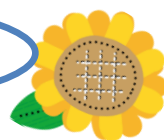


東日本大震災

名古屋って、あったかくて、いいまちだなあ。

寄り添い、ゆっくりと、でも全力で応援します。



被災者支援ボランティアセンターなごやお知らせ

令和2年7月25日発行 (第122号)

本お知らせは、名古屋市に避難されてきた方に役立つ情報をお伝えするため、毎月25日に発行しています。みなさんのご意見・ご感想をお待ちしています

発行：東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや
〒462-8558 名古屋市北区清水4-17-1 5階
名古屋市社会福祉協議会 ボランティアセンター内
電話：070-5587-7153(平日9~17時)

FAX: 052-917-0702

Eメール shien-vc@nagoya-shakyo.or.jp



人が動くようになり、また新型コロナ感染拡大が見られるようになりました。キャンペーンもあり、旅に出たい気もしますが、本当に出かけて大丈夫か不安もあります。迷うところですね。

帰省も含め県外に行かれる方は、訪問先の状況確認をしたり、マスク着用、手洗い消毒など、旅のエチケットを守りながら、「うつさない・うつらない」を実践して楽しんで来てくださいね。

今年の夏は…

今年は、新型コロナの感染拡大があり、東京オリンピックが延期になったり、夏休みが短くなるなど、昨年の今頃思っていたのとは違う夏になりそうです。東北や関東方面への帰省を控える方もいるのではないのでしょうか？

こんな時には、「暑中見舞い」や「残暑見舞い」「お中元」を送ってみるのはいかがでしょうか？

「暑中見舞い」は、猛暑期に普段なかなか会えない方やお世話になった方の健康を気遣い、壮健に過ごして欲しいとの思いを届ける夏の便りです。江戸時代に生まれ、明治時代に郵便制度が発達したとともに、贈答の習慣が簡素化された挨拶状を送る習慣になり、大正時代に現在の形に定着したそうです。

この夏の便りですが、二十四節気でいう「小暑」(7/7頃)から「立秋」(8/7頃)前に送るのが「暑中見舞い」で、梅雨明け以降を目安に送ることが多いようです。「立秋」から8月末頃に送るのが、「残暑見舞い」になります。

また、日ごろお世話になっている人へ感謝の気持ちを込めて贈るギフトに「お中元」があります。元々は中国の風習で、祖先を供養する日だったそうですが、日本に伝わった後、仏教の風習と混ざり、今の形になったそうです。ただ、地域により贈る時期が違うようで、東北・関東地方は7月初旬～15日頃に贈りますが、東海地方や関西地方では、7月中旬～8月15日頃に贈るのが一般的と言われています。九州では、8月1日～15日頃、沖縄では、旧暦7月15日前後(今年は9月初旬)だそうです。こんなに地域差があるんですね！

いつもと違う夏だからこそ、いつもと違うことをしてみるのも良いかも知れません。

被災者支援ボランティアセンターまで事前にお申し込みください。

「革工芸の会」

革細工(レザークラフト)をボランティアさんに教えてもらいながら行います

日時:令和2年8月4日 火曜日 10時15分～12時

会場:名古屋市総合福祉会館6階 録音編集室
(北区清水四丁目17-1 北区役所内)

持ち物:はさみ(よく切れるもの)、あればラジオペンチ

材料費:1回500円～(実費相当)



寺子屋 NIT!

3月をもって、休止することになりました。再開する時は、またご案内します。